夢 通信

平成23年12月号

夢をつなぐ　心をつなぐ　世界をむすぶ
きぬがわ せいさ こうぎょう
衣川製鎖工業株式会社
衣川宏介

『磁鉄（じしゃく）頓智才兵衛』

子供の頃、毎日のように「Ｕ字型」の磁石を持って砂場へ遊びに行きました。小さな黒い粒がついて来ます。それを紙袋に入れて持ち帰り、セルロイドの下敷きの上に乗せます。下から磁石を動かすと、まるで針ネズミの競争のように動き回ります。水を張ったお皿の中に針を浮かせて磁石を近づけると水の上をまっすぐに走ってきます。針がうまく浮かない時には小さな紙片の上に乗せて遊びました。

磁石についてくる砂場の黒い粒は何なのだろう？針はどうして磁石につくのだろう？ふしぎに思いました。今は生活の場所にたくさんの磁石が使われています。冷蔵庫の表にはメモ用紙が、ホワイトボードには赤色や黄色の丸いフェライト磁石や帯状の磁石がくっついています。携帯電話の中にも数種類の磁石が、ハンドバックの蓋にも、目立たないところで働いています。

天然の磁石、それも輸入品が多かった江戸の庶民は磁石を見ることも手にすることも無かったでしょう。幕府の『採薬使』が岩手県で磁石を発見した情報は江戸の町中を駆け巡ったに違いありません。(1723年)それから２０年後に『毛抜き』と言う題名で磁石が狂言に取り入れられました。(初演1743年)磁石を持った忍びの者が天井裏に忍び込み、お姫様を奇病に陥れます。髪の毛が磁石の力で上へ逆立つのです。髪の毛に付けた銀の笄（こうがい＝飾り物）が実は鉄製であった事が判明、めでたく奇病が治ったという話です。

磁石の力に、想像を膨らませた小説家（虚空山人）が磁石の本を残しています。『磁鉄（じしゃく）頓智才兵衛』です。(1791年)磁石を買って金物屋を営み大もうけを企む主人公が失敗を繰り返します。磁石で黄金の刀を海中から拾おうとして、沖を行く舟の釘が磁石について舟がバラバラになり沈んだ話。天上の鬼の金棒を磁石で吸い取ろうとして自分が雲の上まで上がってしまう話。など、奇想天外なSF娯楽小説です。江戸の庶民にとっては、話に聞くことはあっても見たことのない［鉄を吸う磁石］は最も不思議なモノの一つだったでしょう。

参考資料
１．磁石の魅力　板倉聖宣　仮説社　1980年
『採薬使』については『夢通信』平成２２（2010）年　採薬使　参照してください。
http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/yume/101201.pdf

鎖づくりに興味のある方はぜひごらんください。面白いですよ！

『鎖ができるまで』の鑑賞方法。
サイエンスチャンネルに接続
http://sc-smn.jst.go.jp/
番組表で左の検索枠に入力
『鎖ができるまで』
検索ボタンをクリック

一年間のご愛読ありがとうございました。